

【巻頭言】

運動疫学研究会の発足と運動疫学研究会誌の発刊にあたって

下光 輝<sup>1)</sup>

1) 東京医科大学衛生学公衆衛生学教室

運動疫学研究会は、平成 10 年 9 月 15 日、第 53 回日本体力医学会大会の開催を前にして、横浜のかながわ労働プラザ会議室においてあふれんばかりの多くの参加者とその熱気の中で発足しました。

疫学は、さまざまな要因が健康と疾病に与える影響を、集団を対象として調べ、その結果を実践に役立てる科学であります。その成果は、最終的には個人の健康づくりと疾病予防に役立たなければなりません。近年、臨床医学でいわれている Evidence Based Medicine (EBM) は、その時々のも最も優れた研究の evidence を個々の患者の診断と治療に役立てようとするものであり、これはそのまま体力科学の分野にも適用することができるでしょう。しかしながら、体力科学の研究分野では、1949 年日本体力医学会の発足以来、病態生理学や臨床医学的な研究が研究の中心となっており、疫学的手法を用いた研究はこれまで極めて少なかったのであります。その結果、我が国の保健医療や体育などの行政に対して、体力科学の疫学的な分野からの貢献は十分になされていなかったといっても過言ではないでしょう。生活習慣病予防に占める運動と身体活動の役割の重要性を考えますと、「健康日本 21」などの今日の健康づくり施策の開発に対して、運動と身体活動の疫学が貢献する必要がありますが、我が国にはそれらの施策の evidence となるべき疫学的研究に乏しいのが現状です。

このように体力科学の分野において、疫学的な

手法と知識が要求される時代となりつつあるにもかかわらず、日本体力医学会においては疫学研究の歴史の浅さの故に、研究者層の薄さと指導者不足に直面していると言わざるを得ないのであります。そのため、若手の研究者たちは、手探りで研究を進めていかなければならないのが現状でありましょう。一方、疫学の専門家が結集する日本疫学会では、運動や身体活動に関する研究が比較的少なく、運動や身体活動に関する評価方法もあまり論議されていません。

このような状況の中で、体力科学の分野に疫学的手法を取り入れていく事を目的として運動疫学研究会が発足したわけであります。したがって、本研究会の第 1 の目的は、体力科学の分野において、疫学的手法を用いた質の高い研究を数多く生み出し、もって我が国と世界の健康増進・疾病予防に貢献する事であります。そして第 2 には、来るべき 21 世紀の体力科学研究と運動疫学研究を担う若い研究者の育成であります。若い研究者が、疫学的手法を学ぶ事により、日本体力医学会の新たな潮流、新たな翼を形成する力になり、日本体力医学会の研究分野とその内容が、より一層広がりかつ深まりひいては日本体力医学会の一層の強化につながるものと確信しております。

21 世紀の到来を目前にして、本研究会が設立された事は、きわめて意義深いものと思われまます。本研究会が発展し、国民の健康増進に寄与することを切に希望します。

1) 〒160-8402 東京都新宿区新宿 6-1-1